

大唐十郎展

大唐十郎展の全貌

YOKOHAMA

1 11/1-20 桜木町びおシティ
路地の展覧会
 ~オブジェと唐十郎~

「特権的肉体論」を掲げ、役者の肉体を前面に押し出す舞台づくりで名を馳せてきた唐十郎。しかし一方で唐は、モノに心底思い入れてきた演劇人でもある。その舞台には、嬉々として自らの愛玩物に饒舌を捧げる人物が頻出する。そのとき圧倒的なことが、モノを単なるモノではなくオブジェたらしめてゆく。そこでは鏡は池に、タタミは日本海に、スリッパは飛行機になる！



この展覧会では、そんな唐十郎の舞台を彩ってきたオブジェの数々を中心に集めてみた。ことがモノを輝かせ、モノがことばを走らせる。唐ファン必見の小道具の数々。

2 11/4 横浜赤レンガ倉庫1号館ホール
21世紀リサイタル
 ~うたと唐十郎、「四角いジャングル」2011版~

唐十郎が初めて劇中歌を書いたのは、第二作目にあたる1965年の『月光町月光丁目三日月番地』。以来、現在に至るまで、紅テントの帰り道に口ずさんだあの歌がこの場に大集結する。勿論これは73年に行われた伝説のリサイタル「四角いジャングルで唄う」の現代版だ。ボクサー姿の唐十郎を筆頭に、出演は豪華面々。これを見逃した唐ファンが一生後悔するであろうことは間違いない。集え聴衆よ。そして、「ジョン・シルバーの唄」を合唱せよ！

この豪華出演陣を見よ！

出演：唐十郎、大久保鷹、十貫寺梅軒、安保由夫、稲荷卓央、渡会久美子、近藤結有花、椎野裕美子 他

演奏：小室等、張紅陽（めいな Co.）、大貫誉、サトウユスケ、NRQ

3 11/12.13 みなとみらい臨港パーク
劇団唐ゼミ★テント公演
 ~大海のぞむ青テント、唐演劇の真髄~

展覧会、リサイタル、上映会ときて、芝居がなければじまらぬ。だれよりも唐十郎は芝居の人、テント公演こそはその真骨頂だ。唐ゼミが春から公演し大好評を博してきた『海の牙』は、ここに堂々のクライマックスをむかえる。海から10mの岸壁に翻る青テントの中は、陽のあたる坂道の底を這いつくばる登場人物たちの群れ、群れ、群れ。アンマにパンマに片端者…。ヤツらの決闘渦まきとき、日本人の血は大陸に向かって逆流する。



4 11/19.20 横浜シネマ・ジャック&ベティ
『汚れた天使』上映会
 ~スクリーンの彼方に~

唐十郎の劇空間は、いつも彼方を目指す。紅テントの芝居を観た者ならば、だれもがあのエンディングを知っているはずだ。そしてここに一本のフィルムがある。製作されたときより公衆の目に触れることなく、じっと公開の時を待っていた秘蔵の一本。やはりここでも、彼方を志向する唐十郎の手つきは健在だ。スクリーンの中から出発し、それを突き破ろうとする意志と鮮やかな手腕。日常はいつの時代も閉鎖的であり、堅牢だ。しかし、唐十郎とともにある限り、非日常への扉はいつでも開かれていた。それをさし示す究極の映像作品。

監督：唐十郎 / 出演：唐十郎、大久保鷹、他状況劇場役者陣



大唐十郎展の目玉 『劇中歌リサイタル』について語る！ 中野敦之 × 唐十郎

劇団唐ゼミ★代表

劇中歌リサイタルを
 やりたい！

中 今回の「大唐十郎展」では展示や上映会、唐ゼミ☆のテント公演などの出し物を留意してありますが、やはり白眉は「劇中歌リサイタル」です。僕がこれを企画した理由は二つ。一つは、横浜国大で唐さんが行った最終講義で、「少女仮面の唄」を歌う唐十郎に惚れてしまったから。二つ目は、数年前に行われた扇田（昭彦）さんの批評家賞の授賞式に、唐さんがボクサー姿で会場に乱入して、扇田さんの一番好きな歌「月がかければ」を捧げた現場を目撃してしまったからです。そのとき、唐さんが着替えたのは会場脇の廊下。掃除のおばさんに不審がられながらも、衣装持参で歌を贈るボクサー姿の唐さんにイカれてしまいました。以来、いつかコンサートをやらなければいけない、と。

それにしても、唐さんは自分の美声にいつ頃気がついたんですか。唐さんは少年時代ですが、内向的だったと聞きました。けど、歌を声に出して歌われるような子供だったんですか。唐 そつじやないねえ。無口で。何を考えてるかわからない、

お前と一緒にいると気持ち悪いと言われるような。それがどこから歌にいったかという、僕のおじさんが結核でサナトリウムに入っていて、中学時代、月に1回病院に医療費を届けに行っていた。そのおじさんの枕元にあったのが小林秀雄全集。開くと中原中も書いてある。それをそらんじてる間に、シャンソンみたいになってきたんだよ。

中 よく謙遜して「歌い方について（四谷）シモンさんに悪口言われた」とか言いますけど。唐 シモンに「何が俺はアマチュアなんだろう？」ってきいたら「唐、お前は唄いながらヨガってるだろう？」と。思わず「うん」

リサイタルはこうなる！

中 今回のリサイタルでは、「さすらいの唄」をトップで歌ってもらいたいんですよ。次に「月がかければ」を歌って、不思議な血を持つ女たちへと繋いでいく。唐さんの伴奏には小室等さんがつきます。途中には、安保さんに「サーカスの歌」をやって頂いて。その前には大久保さんに「特権的肉体論」の冒頭の中原中也論を読んでもらいたい。

唐 「サーカスの歌」は中也の詩ではあとが続いていて、「ブランコに乗った人が見下

吹いてどっちに行こうかなと迷った時に、歌であつちの方に「行こう」と歌詞を作っていく。もう一つは、室内。壁の隅を見つめているときにね、忘れていた大過去が畳の間を這って自分の背中に忍び寄ってくる。中 世間の迷路に立つ時と自分の内面の迷路に立つ時という両方で、歌が道しるべになっていくんですね。

唐 うん。結局どちらも迷路なんだけど、そこに立って「よし、こちらの道行くぞ」という決意だよ。歌って勢い、瞬間ですね。

中 この間の「ひやりん児」も劇中歌が多かったですよね。科白と歌ではどちらが書きやすいですか。唐 やっぱ科白だよ。で、（登場人物が）会話に行き詰まると、自分の方に巻き込もうと歌にもってく。

中 歌を通して、相手を絡めとろうとするんですね。歌うことで舞台上の主導権をとっていく。唐さんの書いているキャラクターが生き活きする瞬間ですね。

唐十郎「全4巻」コレクシヨン
 ①昼下りの主役（マッセイ編）
 ②銀ヤンマ小説篇
 ③少女都市からの呼び声 戯曲篇
 ④紅テント劇談 雑談編
 定価各1,995円 ①〜③既刊

唐十郎ギヤラクシー
 堀切直人 定価2,500円
 唐十郎の劇世界
 扇田昭彦 定価2,940円
 唐十郎十新編 山田 定価1,890円

右文書院 〒101-0062 千代田区神田駿河台1-5-6
 TEL 03-3292-0460 FAX 03-3292-0424

ロッキング・オン
 「演劇曼陀羅」
 唐十郎の世界

制作著作 読売新聞社 DVD3枚組 ¥5,000(税込)
 お問い合わせは紀伊國屋書店まで TEL:03-6910-0519

唐十郎 夕坂童子
 演劇の先端を疾走する著者が、生まれ育った下町を舞台に描く最新戯曲。取材ノート初公開。四六判 定価1,995円(税込)

唐十郎・室井尚 教室を路地に！
 横浜国大vs紅テント2739日
 劇団唐ゼミ☆を生んだ横浜国立大学での「唐教授」の冒険を総括し、演劇の可能性を問う。四六判 定価1,785円(税込)

岩波書店 東京都千代田区一ツ橋2-5-5
 http://www.iwanami.co.jp/

から・じゅうろう
 劇作家、演出家、小説家、俳優
 1940年東京生まれ。1963年、劇団「状況劇場」を旗揚げ、1989年からは劇団唐組を主宰。野外に「紅テント」を張って日本各地で公演を行う。70年代には戒厳令下のソウル、パレスチナ、バングラデシュといった政治状況が不安定な地で公演を行う。1970年『少女仮面』で岸田國士戯曲賞、1983年『佐川君からの手紙』で第88回芥川賞を受賞する。1997年に横浜国立大学教授に就任。唐ゼミを始める。2003年の春公演『泥人魚』において、紀伊國屋演劇賞、読売演劇大賞演出家

優秀賞、鶴屋南北賞、読売文学賞を受賞。2005年に近畿大学客員教授就任。2006年に読売演劇大賞芸術栄誉賞、明治大学特別功労賞を受賞。2010年、韓国にて第3回李炳注（イ・ビョンジュ）国際文学賞を日本人として初めて受賞する。2011年10月より「西陽荘」上演。

●主な戯曲作品
 『ジョン・シルバー』(65) 『腰巻お仙 -義理人情いろはにほへと篇』(67) 『少女仮面』(69) 『吸血姫』(71) 『二都物語』(72) 『ベンガルの虎』(73) 『唐版 風の又三郎』(74) 『下谷万年町物語』(81) 『秘密の花園』(82) 『ジャガーの眼』(86) 『泥人魚』(03) 『津波』(04) 『風のほこり』(05) 『夕坂童子』(08) 『百人町』(10) 『ひやりん児』(11) 他多数



2004年唐組春公演『津波』 撮影：藤澤邦見